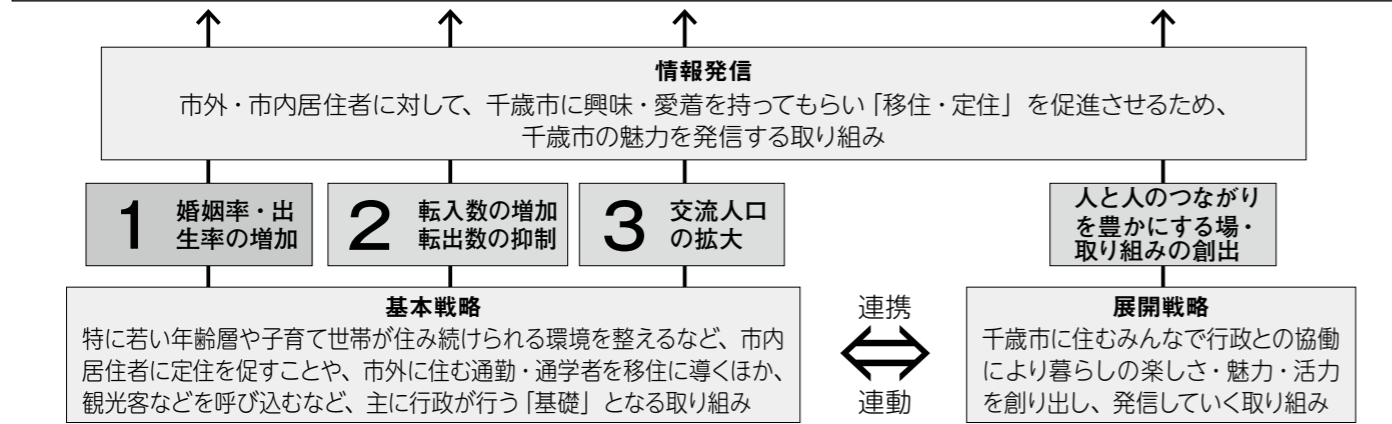


総合戦略編

・全国的な少子高齢化に伴う人口減少が続く中、千歳市は、北海道内で人口が増加している数少ないまちです。
 ・このまちの勢いをさらに飛躍させ、活力が循環するまちづくりを進めるため、総合戦略の目標としては、平成27年度当初人口約9万4800人から、平成32年度に定住人口9万7000人の達成を目指します。

総合戦略の目標「みんなで97,000プロジェクト」 (数値目標：平成27年4月の人口約9万4800人 ⇒ 平成32年度における定住人口9万7000人の達成)



基本戦略

1 婚姻率・出生率の増加
 出生数を増加させるため、独身者などを対象に結婚相手に巡り合う機会をつくり、婚姻率や出生率を向上させることや、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりなどの取り組みを実施

目標

- 1000人あたり婚姻届出の率 6.5以上 (平成32年度まで)
- 合計特殊出生率 1.6以上 (平成32年度目標値)

施策

- ① 結婚活動応援事業
- ② 千歳市不妊治療費助成事業
- ③ 父子健康手帳発行事業
- ④ いいお産の日 in ちとせなどの子育てイベントの充実
- ⑤ 地域子育て支援センターの拡大
- ⑥ 企業連携がちなゼミの導入
- ⑦ 放課後の「子どもの居場所づくり」の推進
- ⑧ 子育て特典カード事業の推進

2 転入数の増加／転出数の抑制
 企業誘致や創業支援などの雇用創出や交通ネットワークの充実、医療・教育・住環境などを向上させる取り組みなどを実施

目標

- 転入超過数 150人以上 (平成27年度～平成32年度までの平均値)

施策

- ① 創業支援事業
- ② 移住相談窓口の充実
- ③ 自衛隊体制強化の要望活動
- ④ 新規就農者特別支援事業
- ⑤ 企業誘致の推進
- ⑥ 地域企業販路開拓支援事業
- ⑦ 住まいのコンシェルジュ (住宅総合相談員) の配置
- ⑧ ICT教育の充実
- ⑨ 小中学校児童生徒の学力の向上
- ⑩ 交通ネットワークの充実
- ⑪ 千歳市休日夜間急病センターの新設
- ⑫ 職場見学バスツアー
- ⑬ 雇用情報センター機能強化事業

3 交流人口の拡大
 千歳市の魅力を肌で感じ、口コミで広げてもらうことや、観光産業などの活性化により雇用を創出し、定住人口の増加を図るため、新千歳空港などの観光資源を最大限に活用し、市内に誘客を図る取り組みなどを実施

目標

- 観光入込客延べ数 3200万人以上 (平成27年度～平成32年度までの市内の観光地点)

施策

- ① 市外に居住する方々との農村交流
- ② 道央圏への誘客
- ③ 支笏湖産ヒメマスのブランド化
- ④ スポーツ宿泊・大会の誘致などの推進
- ⑤ 新千歳空港利用者の市内への回遊促進
- ⑥ 観光施設の機能充実
- ⑦ 中心商店街空き店舗利用促進事業

展開戦略

人と人がつながりを豊かにする場・取り組みの創出
 若い市民の定住、市外から通勤する就業者、通学する学生の移住を促進させるため、多様な人と人のつながりを豊かにし、魅力を高める取り組みを実施

目標

- 「千歳市に住みたい／住みたい」と回答する割合7割以上 (平成32年度までの市民および市内の就業者)

施策

- ① 若い世代が参画する「(仮称) チャレンジ・スペース」創出事業
- ② 千歳市の暮らしの楽しさ・魅力を高め、伝えるプログラム創出事業

情報発信

移住・定住を促進するため、「千歳を知ってもらおう」、「千歳に来て魅力を感じてもらおう」、「移住を決める要因となる機会を提供する」といった段階的な取り組みを実施

目標

- 市ホームページアクセス延べ数 3万件 (平成27年度～平成32年度までの市移住情報のページ)
- 観光入込客延べ数 3200万人 (平成27年度～平成32年度までの市内観光地点)
- 移住相談延べ数 600件 (平成27年度～平成32年度までの延べ数)

施策

- ① 移住情報の充実
- ② 泉沢向陽台住宅地の販売促進活動
- ③ 求人情報などの提供
- ④ 観光PR事業
- ⑤ 東京千歳会交流会の開催
- ⑥ 子育て情報の発信



日本の人口は、2008年をピークに人口減少が始まっており、全道で一番若いまちと言われている千歳市も例外ではありません。
 今月のズームアップは、平成28年3月に策定した、市民の皆さんとともにまちの勢いを飛躍させ、活力が循環するまちづくりを目指す「千歳市人口ビジョン・総合戦略～みんなで97,000プロジェクト～」の概要についてお知らせします。

千歳市人口ビジョン・総合戦略 ～みんなで97,000プロジェクト～ (概要) (平成27年度～32年度)

人口ビジョン編

◇人口推計
 国立社会保障・人口問題研究所によると、平成25年3月に発表した千歳市の人口は、平成32年に約9万4700人でピークを迎え、平成52年には約8万8700人まで減少すると推計されている

人口に関する課題とその解決の方向性

課題1 婚姻率の向上

◎千歳市の婚姻率は、近年、減少傾向
 ◎「適した相手にまだ巡り合わない」ことが、独身でいる最も大きな理由
 →特に、若い年齢層が希望する相手と巡り合える機会を増やし、初婚年齢を下げる施策が有効

課題2 出生率の向上

◎千歳市の合計特殊出生率は、近年、横ばいが続いている
 また、晩婚化により20歳代の出生率が下がる
 ◎市民は、独身者、既婚者とも2人以上の子どもを希望
 →子どもを産み育てやすい環境、暮らしやすい環境をつくって行くことが必要

課題3 転入数の増加と転出数の抑制

◎千歳市は、毎年5000人～6000人が転入・転出する人口移動の活発なまち
 →転入数をさらに増やし、転出数を抑制することにより、人口増加・維持につなげる
 特に若い年齢層を中心に取り組みを行うことが効果的

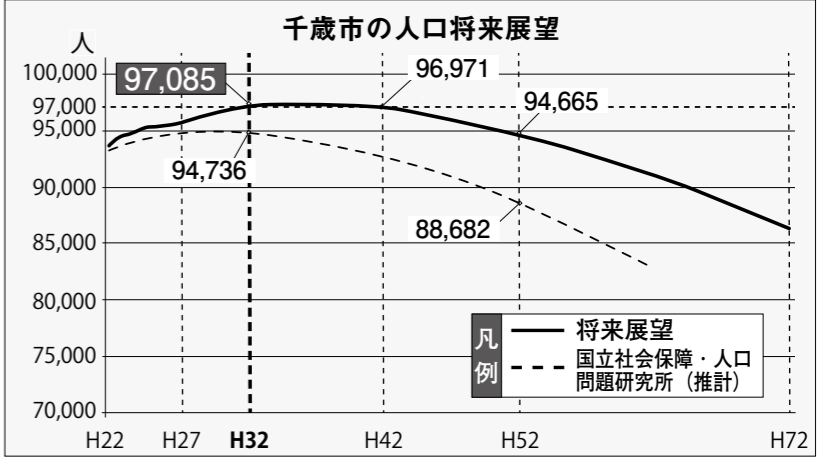
◇人口の将来展望
 人口推計や人口に関する課題とその解決の方向性を考慮して、「出生率の向上」や「転入超過数プラスの維持」を目標にし、千歳市の人口の将来展望は「平成32年に人口9万7000人を達成し、以降も10年超にわたり同程度の人口を維持」と設定する

出生率の向上

◎主に出産の中心世代である20歳～39歳までの女性人口が減少する見通しのため、出生率向上の取り組みが必要
 →合計特殊出生率を平成42年までに1.8程度、平成52年までに2.07程度に向上させる

転入超過数プラスを維持

◎千歳市は、転入・転出の人口移動が活発で、市外からの通勤・通学者が多いため、転入数の増加、転出数の抑制、市内居住が促進される取り組みが必要
 →転入超過数の目標を年平均150人とする



この記事のお問い合わせ 企画部主幹付主査 (地方創生・定住促進担当) ☎ (24) 0521